

北の子

浜岡北小学校だより 2019年度 10月号

＜学校教育目標＞

「たくましさ」と「思いやり」いっぱいの子

＜重点目標＞

みんなで考え みんなで伸びる

ラグビーワールドカップからの学び



南アチームとの交流

ラグビーワールドカップ2019は、現時点で日本代表が3戦全勝していることもり、大変盛り上がっています。本校では、10月2日（水）に全校児童が南アフリカチームとの交流を行いました。また、4日（金）に5年生が南アフリカ対イタリア戦を観戦しました。当日観戦した河原崎桃実さんが自主的に感想をまとめてきましたが、その内容が素晴らしかったので、一部を紹介します。



試合での応援

私は、ラグビーを改めて「おもしろい。」「関心をもった。」と思えるようになりました。理由は、とってもカッコよくて、トライした本人もすごいけど、その前に頑張った人、ナイスプレーが何度も出ていたからです。これは、絶対「**一人がみんなのために、みんなが一人のために**」に入るし、**団結**していると思います。それは、**仲間がつながっている**からだと思います。みんながみんなを**信じめいた結果**だと思います。

<中略>

私は、南アフリカが勝ったのもすごいけど、**内容もとってもよかった**と思います。私はバレーで優勝しても、監督などに「やっぱり内容はもう少し頑張った方がいいな。」と言われます。だから私は、監督が目指しているバレーをしたいです。それを**お手本にできるのは、ラグビーの選手**かなと思いました。<中略>

私たち**5年生の目標は、南アフリカの選手**だと改めて思いました。理由は、とても団結できていたからです。

内容から**深い学び**をしていることが分かります。まず、選手の目に見えるプレーの素晴らしさに気付くだけでなく、その**プレーを支えている心**にまで目を向けています。次に、学び取ったことを**実生活に生かそう**としています。

特に桃実さんが学んだ「団結、仲間とのつながり、信じぬく」などは、**学校教育目標**にある「**思いやり**」にもつながります。その学びを実生活に生かすためのキーワードは、「**多様性**」ではないかと思います。ワールドカップを見ていて、日本代表に外国人選手が多いことに気付かれたでしょうか。外国籍であっても日本に3年間継続して住んでいれば、代表としての資格を得ることができるのです。ですから、技術の高い選手や体格のよい外国人選手が加わることで、チームがより強くなりそうです。とはいっても、私たちは、同じ日本人の中でも考え方の違いや相性の関係から生活の中でトラブルが起きることがあるのですから、さらに考え方や価値観が多様な多国籍の集団が勝利を目指して協力し合うことは、簡単ではないでしょう。お互いに理解し合えなければ、かえってそのチームは弱くなってしまいます。しかし、日本代表選手たちは、**それぞれの考えの違いやよさを認め合い、結束することによって、試合でも結果を残す**ことができています。それは、学校生活でも同じです。性格、考え方や価値観、得意・不得意などは、一人一人違います。そういったことを受け入れたうえで、どのようにすればよいのかということについて、**重点目標**である「**みんなで考え みんなで伸びる**」学級・学校になることを願っています。

ラグビーワールドカップは、さらに盛り上がっていくことと思います。今後も桃実さんのように、一人一人の**子どもたちが自ら何かを学び取り、実生活に生かそうとしていくことを期待**しています。

(校長 北原 弘明)